

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
AA45N052		原子と分子(Atoms and Molecules)					全学共通科目 自然・科学	オンライン(オンデマンド型)										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	1・2・3・4	教・経・福	前期		氏名 大賀 恭(理工) E-mail yohga@oita-u.ac.jp 内線 7958												
授業の概要	物質科学の基礎としての化学を、原子・分子という微視的観点から学ぶことによって、物質の成り立ちについての理解を深めることを目指す。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	基本物理量, 単位を用いて, 適切な有効数字で測定値を表現・取り扱うことができる																	
目標2	物質を構成する基本単位である原子の構造を説明できる																	
目標3	原子同士の結合の種類とそれらの成り立ちを説明できる																	
目標4	結合様式の違いに基づいて, 分子の構造と性質を説明できる																	
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1	受講にあたっての注意事項(オンライン), 第1章 化学の基本: 物質の分類																	
2	第1章 化学の基本: 元素と元素記号																	
3	第2章 単位と測定値の扱い: SI単位																	
4	第2章 単位と測定値の扱い: 有効数字																	
5	第3章 原子の構造と性質: 電子と原子核																	
6	第3章 原子の構造と性質: ボアのモデル																	
7	第3章 原子の構造と性質: 原子軌道																	
8	第3章 原子の構造と性質: 電子配置																	
9	第4章 原子から分子へ: 共有結合																	
10	第4章 原子から分子へ: 混成軌道																	
11	第4章 原子から分子へ: 結合・共鳴																	
12	第4章 原子から分子へ: 電子対反発則・極性																	
13	第4章 原子から分子へ: 分散力・水素結合																	
14	第5章 いろいろな結晶: イオン結晶・金属結晶・共有結合結晶																	
15	第5章 いろいろな結晶: 半導体																	
ラーニング	A:知識の定着・確認	毎回, 講義内容に関するチェックテストと課題レポートを課す。					工夫 その 他の	毎回の課題は添削・採点して, 解答例と解説を付けて返却する。特に理解が不十分だと思われる点は, 解説のオンデマンド資料を作って復習に役立つようにする。										
	B:意見の表現・交換																	
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修	事前に教科書, 講義資料に目を通しておく(15h)。																
	事後 学修	毎回の講義内容に関する1~2題のレポート課題を課すので, 教科書, 講義資料を見直しながら問題を解いて復習すること(30h)。																
教科書	浅野 努, 上野正勝, 大賀 恭 共著「第4版 FRESHMAN化学」, 学術図書出版社, 2022年, ISBN 978-4-7806-1034-5																	
参考書	浅野 努, 荒川 剛, 菊川 清 共著「第4版 化学 - 物質・エネルギー・環境 - 」, 学術図書出版社, 2008年, ISBN 978-4-7806-0117-6 浅野 努, 上野正勝, 大賀 恭 共著「原子・分子から学ぶ化学の世界 - 基礎化学・エネルギー・環境 - 」, 学術図書出版社, 2009年, ISBN 978-4-7806-0172-5																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	毎回のチェックテスト	10%																
	毎回のレポート課題	40%																
	期末試験	50%																
注意事項	講義はプロジェクトを用いて行う。画面に表示する内容(講義資料)は, 事前にMoodleからダウンロードすること。関数電卓, excelの操作ができるようにしておくこと。																	
備考	理工学部の学生が教養科目として受講することは認めない。複数学部対象科目であるため, 「具体的な到達目標」の「DP項目との対応」は, 「大分大学卒業認定・学位授与の方針」との対応を記載している。																	
リンク	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式				
AA42G114		福祉テクノロジー入門(Technology of Helping People with Special Needs) *大分を創る科目					全学共通科目 福祉・地域	対面				
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	1・2・3・4	教・理工・福	前期		氏名 池内 秀隆(医) E-mail hikeuchi@oita-u.ac.jp 内線 7944						
授業の概要	高齢社会の到来とともに、それらの問題を解決する取り組みが重要性を増し注目されています。この講義では福祉に関する工学技術・電子情報製品・機械製品に関する話題を提供し、これらへの理解を深めるとともに、福祉分野における機器利用・工学的手法の役割や重要性を認識することをねらいとしています。バリアフリーやユニバーサルデザインという言葉を見かけることが増えました。これらの考え方や身近に応用されている福祉の工学技術を紹介し理解を深めます。また、このような分野の話題を理解するために必要な用語や分野の内容、研究概要なども紹介します。さらに、障害者や高齢者の生活を支援する機器や支援技術(Assistive Technology)について学びます。これらを普及していくために産業との関連や制度・政策に関連する項目も紹介します。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)											
目標1	福祉とテクノロジーに関する正しい認識を判断できる。											
目標2	障害や高齢に対する福祉テクノロジーに関する説明に対し正しい語句を示すことができる。											
目標3	福祉機器に関する特徴や仕組み、用途などを述べるができる。											
目標4	福祉テクノロジーに関する誤解や問題点を述べ、考察することができる。											
目標5	各授業での説明について簡潔に要点をまとめることができる。											
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	障害とは何か、障害の種類											
2	障害に対する誤解、福祉関連工学の歴史											
3	福祉工学とはなにか、バリアフリー											
4	バリアフリーにおける問題点等、ユニバーサルデザイン											
5	共用品、身近な福祉関連技術のメリット・デメリット											
6	情報機器のアクセシビリティ											
7	障害と福祉機器											
8	福祉機器の課題と障害の詳細											
9	視覚障害に関する福祉関連技術											
10	聴覚障害に関する福祉関連技術											
11	言語障害に関する福祉関連技術、運動障害に関する福祉関連技術(杖・歩行器、車いす)											
12	運動障害に関する福祉関連技術(車いす、福祉車両)											
13	運動障害に関する福祉関連技術(介護リフト、移乗機器、昇降装置、コミュニケーション機器)											
14	運動障害に関する福祉関連技術(介護ベット、自助具)、ロボット											
15	知的障害に関する福祉支援技術、講義のまとめ											
ラック ニテ ンイ グ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	1.最終回を除き、毎回の授業で資料兼ノート用紙を提出する。2.第1回を除き、前回の授業で配布された資料を基に各学生が下調べをしてくる。3.第1回および最終回を除き、前回の授業の振り返りに基づき、質問や意見を発言する(一授業あたり2,3名)。					工 夫	そ の 他 の				
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修	配付された資料を読み、下調べをする。(1h)										
	事後 学修	授業を復習し、疑問点や考察・意見をまとめる。(1h)										
教科書	資料兼ノート用紙を配布。											
参考書	・基礎 福祉工学, 手島教之, 米本清, 相川孝訓, 相良二郎, 糟谷佐紀, コロナ社 ・バリアフリーのための福祉技術入門、足立芳寛、後藤芳一、オーム社 ・福祉情報技術1、e-AT利用促進協会、ローカス											
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	期末試験	90%										
	ノート用紙提出	10%										
注意事項	平成27年度までの「福祉と工学技術」を不合格となった者で、同科目の履修が必要な者は本科目で読み替えます。「福祉と工学技術」を履修(単位取得)した者は、受講できません。重複履修となりますので、注意してください。											
備考												
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
AA45N011		生命観の変遷(History of Biological Science)					全学共通科目 自然・科学	対面									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	1・2・3・4	教・理工・福	前期		氏名 牧野 治敏(教マ) E-mail hmakino@oita-u.ac.jp 内線 7644											
授業の概要	現代の生命科学が成立する過程について、古代ギリシャから現代までを各時代の社会的、文化的背景を踏まえながらとります。これらの過程を通して一義的に解釈されがちな現代の科学にも多様な解釈の仕方、捉え方があり、科学には社会的な影響が及んでいることを学び、将来像を考察します。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 自然科学における「パラダイムシフト」の概念を説明できる。																	
目標2 ギリシャ時代、中世、近世の生命観を簡潔に説明できる。																	
目標3 ダーウィンの進化論と、それ以前の進化論との違いを示すことができる。																	
目標4 生物多様性が社会的に必要な理由を自分の意見をもとに説明できる。																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 「いのち」を考えることの意味(本授業の概要)																	
2 古代ギリシャの生命観1:祈禱から治療へ(ヒポクラテスの考え方)																	
3 古代ギリシャの生命観2:生き物の観察と記述(アリストテレスによる記載)																	
4 古代ギリシャ・古代ローマの集大成:ガレノスの実践とその伝承																	
5 中東の国々の自然科学と医学:ギリシャ・ローマ文化の継承と発展																	
6 新しい自然観:暗黒時代からルネサンスへ(画家による描写)																	
7 実践的な描写に基づく解剖学の始まり:ベサリウスによる表現																	
8 機械論的な生理学:血液循環を導いたハーヴィの考え方																	
9 後成説と前成説:生きもの原型はどこにあるのか(発生学の歴史)																	
10 自然発生説の否定:生き物はどこから生じるのか(パスツールによる証明)																	
11 生物多様性の解釈:ダーウィン以前の進化論(ビュフォン、ラマルク)																	
12 進化論:生命観の大転換(ダーウィン、ウォレスの進化論)																	
13 人類の進化:生物としてのヒトの位置づけと優生学																	
14 分子生物学の成立:分子による生命現象の記述																	
15 「生物の多様性」という考え方:個体差、性差を考える																	
ラ ア ク ニ テ ン イ グ レ	A:知識の定着・確認	授業内容の理解を促進するために授業の途中でクイズを出す。					工 夫 そ の 他 の										
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	Moodleに示された、事項の調べ学習(8h)															
	事後学修	参考図書を読む。毎回の授業に関連した事項について、復習課題をMoodle上へ提出する。(8h)															
教科書	定めない。																
参考書	・近代科学の源流(伊東俊太郎)中公文庫 2007・まんが医学の歴史(茨木保)医学書院 2008・アヴィセンナ「医学典範」日本語訳(檜学他)第三書館 2010・裸のサル(デズモンド・モリス)角川文庫 1999(絶版)・医学の歴史(小川鼎三)中公新書 1964・生物学の歴史(チャールズ・シンガー;西村顕治訳)時空出版 1999(絶版)																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	Moodleによる課題提出	45%															
	期末試験	55%															
注意事項	提示資料には動物等の解剖図、写真等を使う。常識の範囲のものであるが、苦手な人は授業選択の際に注意すること。授業で提示するスライドは事前にMoodle上に掲載するので、必要な人は各自でダウンロードや印刷してください。																
備考	授業で提示するスライドはLMS(Moodle)上に掲載する。																
リンク	URL																

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
AA41N111	コンピュータ科学入門(Introduction to Computer Science)					全学共通科目 導入・転換	対面					
*大分を創る科目												
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	1・2・3・4	教・経・医・理工・福	前期		氏名 中島 誠(理工) E-mail nakasima@oita-u.ac.jp(中島) 内線 7884(中島)						
授業の概要	我々の生活にはコンピュータが不可欠となっている。インターネット上での情報のやりとりや、音声や画像などの処理が手のひらの上のコンピュータで行われ、家庭内でも知能ロボットが使われ始めている。また、蓄積された情報の中から有用な情報を得る技術は個人だけでなく企業経営における意思決定や社会システムの効率化などに応用されている。この講義では、背景にあるコンピュータの発展の歴史と、その応用を支える基本技術を学習する。											
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	コンピュータに興味を持ち、その発展の歴史を説明できる。											
目標2	コンピュータ科学とその応用分野との関係を説明できる。											
目標3	コンピュータの社会における基本的な活用法について説明できる。											
目標4	コンピュータ社会が抱える課題に関心を持ち、自分自身の意見を述べるができる。											
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	コンピュータの歴史と基本的な構成を概観する。											
2	ハードウェア・ソフトウェアの役割と設計技術を紹介する。											
3	インターネットの歴史と基本技術を紹介する。											
4	WWW上での情報提供と取得のための技術を紹介する。											
5	情報検索の歴史とその基本的技術を紹介する。											
6	コンピュータ上での音の表現方法について概観する。											
7	音メディア処理の基本技術を紹介する。											
8	コンピュータ上での画像データの表現方法について概観する。											
9	画像データ処理の基本技術を紹介する。											
10	知能ロボットとそれを実現するための基本技術を紹介する。											
11	仮想現実や拡張現実を実現するための基本技術を紹介する。											
12	ソフトウェアの特徴とその設計方法を紹介する。											
13	プログラムが動く仕組みとプログラミングの基本的な考え方を紹介する。											
14	自然科学へのコンピュータの活用方法について概観する。											
15	人工知能に関する基本技術を紹介する。											
ラ ア ー ク ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	トピックごとに、理解度の確認あるいは、受講生自身の意見を問うレポート課題や小テスト等を出题する。宿題として受講生自身の情報収集による事前の下調べを科す場合もある。				工 夫 そ の 他 の						
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修 事後学修	レポート課題や小テスト等(各担当教員の指示)の内容により、図書館等での事前の下調べ(15h)が必要となる場合もある。 授業で学習したことを活かし、課題の完成度を高める(30h)										
教科書	教科書は用いない。											
参考書	適宜、参考資料を配付する。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	レポート課題	70%										
	小テスト	30%										
注意事項	工学部知能情報システム工学科ならびに理工学部共創理工学科知能情報システムコースの学生は履修不可。すでに全学共通科目の「情報科学の世界」を修得した学生は履修不可。											
備考	高見利也(理工), 古家賢一(理工), 大竹哲史(理工), 紙名哲生(理工), 行天啓二(理工), 池部実(理工), 賀川経夫(理工), 佐藤慶三(理工)も合わせて担当する。											
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の 実務 経験	中島誠（開発者）、古家賢一（研究員）、紙名哲生（研究員）、行天啓二（システムエンジニア）、佐藤慶三（システムエンジニア）
実務経験を いかした教 育内容	企業等で使われて来たコンピュータの歴史、システム開発、情報収集、研究開発がどのように行われるかを、経験をもとに紹介しつつ、実用的な技術についても説明する。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
AA42G113	創造的思考法(Creative Thinking Skills)					全学共通科目 福祉・地域	対面					
*大分を創る科目												
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	1・2・3・4	教・経・医・理工・福	前期		氏名 鈴木 雄清 (IR・教マ) E-mail suzuki@oita-u.ac.jp 内線 7069						
授業の概要	情報を整理・視覚化し、新たな発想を生み出すための手法について学ぶ。本科目で扱う内容は、企画、会議、レポート・論文作成、プレゼンテーション、読書、人材育成、質問紙法による自由記述や口頭による自由回答の分析など、様々な場面で応用できる。大学生生活や大分の地域活性化に関するテーマでアイデアを出し、グループによるブレインストーミングを経て、創造的思考ができるようになることをめざす。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	マインドマップを用いて、情報の整理・視覚化し、アイデアを創出できる。											
目標2	ブレインストーミングの意味や意義を説明できる。											
目標3	ブレインストーミングによって、アイデアを創出できる。											
目標4	親和図法を用いて情報を視覚化・整理し、アイデアを創出できる。											
目標5	大分の地域活性化を題材に、アイデアを創出できる。											
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	【ブロック1】オリエンテーション、マインドマップ練習：「しあわせ」マインドマップを作成する。											
2	マインドマップとは、Xmindの使い方：Xmindで「しあわせ」マインドマップを作成する。											
3	自己分析マインドマップ：自分自身についてのマインドマップを作成する。											
4	読書マインドマップ：1冊の本からマインドマップを作成する。											
5	マインドマップのまとめ [課題1]											
6	【ブロック2】ブレインストーミング(1)：グループで大学生生活に関する順番ブレインストーミングをする。 [課題2]											
7	ブレインストーミング(2)：グループで大分の地域活性化に関する順番ブレインストーミングをする。 [課題3]											
8	【ブロック3】親和図法－紙切れ作り・紙切れ集め・表札づくり：ブレインストーミングの結果を紙切れにし集める。											
9	親和図法－グループのグループ化・空間配置：A型図解法の空間配置をする。											
10	親和図法－関係線の描画：A型図解法を完成させる。 [課題4]											
11	親和図法－B型文章化：B型文章化で発想する。 [課題5]											
12	【ブロック4】親和図法(2)－A型図解法：大分の活性化に関するブレインストーミングの結果を図解化する。											
13	親和図法(2)－A型図解法(2)：A型図解法を完成させる。 [課題6]											
14	親和図法(2)－B型文章化：B型文章化で発想する。 [課題7]											
15	総まとめと最終課題 [課題8]											
ラック ニ イ ゲ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	演習、小テスト、チェックリスト・ルーブリックによる自己評価、グループ・ペアでの共同作業、省察ミニッツペーパー、マインドマップ、ブレインストーミング、親和図(KJ)法	工 夫 そ の 他 の	アイスブレイク、動画の活用、LMS (Moodle) の活用、タスクは各自のペースで実施								
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修 事後 学修	配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(8h)。ブレインストーミングの準備をする(3h)。授業で学習したことを活かし、課題の完成度を高める。マインドマップの課題(10h)、親和図法A型図解法(20h)、親和図法B型文章化(4h)。小テストや配布資料を用いて復習する。										
教科書	教科書は指定しない。 授業中に配布するプリントや小冊子を使用する。											
参考書	川喜田二郎『続・発想法 KJ法の展開と応用(中公新書 210)』中央公論新社、1970年、ISBN9784121002105 トニーバザン・バリーバザン(著)、近田美季子(翻訳)『新版ザ・マインドマップ 脳の無限の可能性を引き出す技術』ダイヤモンド社、2013年、ISBN9784478017166											
成績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	マインドマップ [課題1]	25%										
	小テスト	5%										
	ブレインストーミング [課題2・3]	10%										
	親和図法A型図解法 [課題4・6]	30%										
	親和図法B型文章化 [課題5・7]	20%										
	最終課題 [課題8]	10%										
すべての小テストおよびすべての課題の合格を単位取得の条件とする。												
注意事項	Mac OS及びLinux OSには対応していないソフトウェアを使用するため、Windows OSが搭載されたコンピュータが必要である。											
備考												
リンク	URL											

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
AA43L312	大分美術史概論(Introduction to the Art History of Oita)					全学共通科目 文化・国際	対面										
*大分を創る科目																	
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	1・2・3・4	教・経・医・理工・福	前期		氏名 田中 修二(教)											
							E-mail tnkshj@oita-u.ac.jp 内線 7596										
授業の概要	日本美術史についての基礎的な知識を学びつつ、大分における美術の歴史的な流れを、先史時代から現代にいたるまで概観する。私たちの身近にある豊かな造形表現に目を向けることで、美術に親しむきっかけを作るとともに、地域への視点を自ら育み、歴史を語るといった行為の構造にも関心を持ってもらえることを目指す。																
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)										
目標1	日本および大分の美術史などを適切にわかりやすく紹介できる。						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標2	芸術表現を通して地域の特性・課題等を見出し、適切に説明できる。																
目標3	歴史を語ることについての問題意識を持ってレポート等が書ける。																
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	オリエンテーション：「美術史」の性格																
2	「大分」とはなにか：「美術史」の視座																
3	石の造形と土の造形：先史時代～																
4	古墳と石人：古墳時代																
5	仏教の伝来と浸透：飛鳥～奈良時代																
6	石仏：平安～鎌倉時代																
7	雪舟と大友氏の「大分」：室町時代																
8	茶の湯の世界：室町～安土桃山時代																
9	南蛮美術：安土桃山時代～江戸初期																
10	文化のネットワーク：江戸時代																
11	田能村竹田と豊後南画：江戸後期～明治期																
12	渡辺長男と朝倉文夫：明治～昭和期																
13	福田平八郎と大分の日本画：大正～昭和期																
14	石橋と鏝絵：「美術」と地域性																
15	近現代美術の諸相：「美術(アート)」の拡大																
グループ	A:知識の定着・確認	グループでの話し合い。展覧会見学・街歩き等の教室外での活動。それをふまえた小レポート					工夫	その他の									
グループ	B:意見の表現・交換																
グループ	C:応用志向																
グループ	D:知識の活用・創造																
時間外学習の内容と時間の目安	準備	前時の内容の復習、事前配付資料等による予習など(8h)。															
	事後	大分県内はもとより、さまざまな地域の美術について関心を持ち、関連する書籍・美術全集・展覧会図録等で学習するほか、各地の歴史的な文化財や美術館などに積極的に出かけ、美術作品を実際に鑑賞する(8h)。															
教科書	教科書は指定しない。授業中に配布するプリント等を使用する。																
参考書	授業中に指示する。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	授業中の課題	50%															
	期末試験もしくはレポート	50%															
(ただし出席および課題等の条件を満たした者のみ試験を受けることができる)																	
注意事項	1～2回、それぞれ課題を出して、授業時間外に各自で大分市美術館や大分県立美術館等での展覧会や県内の文化財などを見学してもらう予定です。原則としていかなる理由があっても、それができなかったときは成績を不可とします。ただしコロナ禍が収束しない場合は、代替の課題等に変更します。																
備考	美術や歴史について関心を持つ学生の受講を勧める。「注意事項」にあるとおり、授業時間外の課題があるので注意すること。																
リンク																	
	URL																

2022年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	自然生態学 (Natural ecology)		
ナンバリングコード	L20104	大分類 / 難易度 科目分野	建築学科 専門科目 / 標準レベル 環境・地域
単位数	2	配当学年 / 開講期	2年 / 前期
必修・選択区分	コース選択必修: 環境地域(まち)コース、環境地域(社会)コース 選択: 建築設計コース、建築工学コース、住居・インテリアコース ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	L121001	クラス名	-
担当教員名	中西 章敦		
履修上の注意、履修条件	・関心のある学生なら誰でも歓迎します。ただし、私語は他の人の迷惑になるので、しないでください。 ・復習を欠かさないようにしてください。 この分野の知識・技術を積極的に学ぶには、知識習得以上に、「体験」「気づき」「感動」「わかちあい」「関連事業への参画」という一連の学習プロセスをとることが最も有効的となります。講演会やシンポジウム、自然観察会などの諸事業にも、積極的に参加して下さい。		
教科書	教科書の指定なし(ただし、毎回ワークシート等を配布。「参考文献」参照。)		
参考文献及び指定図書	『改訂版 ビオトープ管理士資格テキスト、(公財)日本生態系協会監修、日本能率協会MC、3080円』 『自然生態修復工学入門(養父志乃夫 著、農山漁村文化協会、3080円)』		
関連科目	森里海連環学と地球的課題、環境水理学、地域再生論、プロジェクト1～3		

○基本情報	
授業の目的	本講座では、大学構内の身近な自然を通して上記のプロセスを実践し、生態学の基礎を学ぶとともに、可能な範囲で『自然環境に配慮した工学的手法[生態工学の手法]』の基盤となる感性を身につけることを到達目標とします。この目標を達成するために、次のテーマの学びを計画しています。本講義は、ディプロマポリシーにある「技術が環境に与える影響について理解」するもので、この知見をもとに「地域の環境・景観・箕面周りの暮らしに至るまでの諸問題を理解」するものにつながるものである。
授業の概要	21世紀は「自然との共生」の時代といわれています。しかし、私たちがそれを実現させるには、一人一人が、次の一連の「学び」を実行することが必要となります。すなわち、まずありのままの「自然に触れて体感すること」です。次にその体験から「多くの気づきや感動を得ること」です。そして、それらを基盤として、「自主的に科学的知識や技術を学ぶこと」です。本講座は、これらを実施します。本講義では、現在の自然環境における課題や問題点を自分で探し、どのようにすれば解決できるかを考える力を習得してもらいます。
授業の運営方法	(1) 授業の形式 「講義形式」 (2) 複数担当の場合の方式 「該当しない」 (3) アクティブ・ラーニング 「PBL(課題解決型学習)」
地域志向科目	カテゴリー III: 地域における課題解決に必要な知識を修得する科目
実務経験のある教員による授業科目	中西章敦(大分県土木建築部における大分県の道路・河川・地域づくりに関する行政) 「自然環境保全の実態と大分県内における動向に関する講義」

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	自然環境や生態系に興味・関心を持つこと		10点	10点
【知識・理解】	自然環境や生態系の基本的知識を理解すること		30点	
【技能・表現・コミュニケーション】	自然環境や生態系の保全・再生に関する技術の基礎を身につけて、自身で表現できること		10点	10点
【思考・判断・創造】	上記の知識・技術・実践に基づいて 課題を解決するなどの創造的思考ができること		30点	

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)
出席1回につき1点を配点しますので休まず出席して下さい。 毎回の講義の最後に簡単な内容確認ワークシート(各3点)を提出してもらいます。 15回の講義の中で4回のレポート(各5点)を課します。 第15回講義で講義内容を踏まえた自身の環境保全活動に関するレポート(20点)を課します。 講義の中で、適宜質問を行います。優れた解答をした学生は、記録して加点することがあります。

○その他
以下の実践活動についても可能な範囲で評価・加点を行う。 ① 学外の自然環境に関する講座・シンポジウムなどへの参加 ② 学内・学外の定期的な自然観察会への参加など、積極的姿勢や態度

2022年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	自然生態学 (Natural ecology) 中西 章敦	授業コード	L121001
学修内容				
1. オリエンテーション ～本講座の内容から評価方法まで～ 本講座を学ぶ目的、講座内容から評価方法までを紹介する				
予習	「生態学」のイメージについて、予めインターネット等で調べておくこと			(約2.0h)
復習	①配付資料「生物細密画」を精密に模写すること、また、その作業で気づいたことを箇条書きにまとめること			(約2.0h)
2. 自然生態ウォッチング ～早朝・野外実習のすすめ～ 実際の自然の中で法則を見つけ、それを正確に描写する眼を養う				
予習	「生態ピラミッド(生物ピラミッドともいう)」のイメージについて、予めインターネット等で調べておくこと			(約2.0h)
復習	受講者が見つけた「自然の法則」の中で最も自分自身が印象に残った発見を思い起こして調べてみる			(約2.0h)
3. 食物連鎖と生態ピラミッド ～生態系を理解するために～ 生きものたちのつながりを「食べる・食られる関係」から考察する				
予習	「生態系のしくみ」を解説した図書やHPIに予め、目を通しておくこと			(約2.0h)
復習	「生態ピラミッド」「光合成」「食物連鎖」について要領よく解説ができるようにしておくこと			(約2.0h)
4. 生態系のしくみ ～生態系と現代社会システムとの比較～ 生物集団やそれを取り巻く自然のシステムを現代社会と比較して理解する				
予習	「生態的地位(ニッチ)」のイメージについて、予めインターネット等で調べておくこと			(約2.0h)
復習	「自然生態系」と「現代社会の消費システム」の本質的な違いを要領よく解説ができるようにしておくこと			(約2.0h)
5. 生物の相互関係 ～共生・寄生から生態的地位[ニッチ]まで～ 生きもの同士のつながりを「あらゆる関係」から考察する				
予習	「植生遷移」のイメージについて、予めインターネット等で調べておくこと			(約2.0h)
復習	生態的地位」の具体例を要領よく解説ができるようにしておくこと、また、講座の事例以外の具体例も探してみ			(約2.0h)
6. 植生分布と植生遷移 ～植生・植生遷移からその応用事例まで～ 具体的な事例を学ぶことで、植物分布の特徴・植生の時間的変化を理解する				
予習	「生物の多様性」のイメージについて、予めインターネット等で調べておくこと			(約2.0h)
復習	「植生遷移」の具体例、および、その応用例(環境保全事例)を要領よく解説ができるようにしておくこと			(約2.0h)
7. 生物の多様性 ～遺伝子・種・生態系、3つの多様性～ 具体的な事例を学ぶことで、3つの生物多様性について理解する				
予習	「生物多様性の危機」及び「ビオトープ」という用語について要領よく解説ができるようにしておくこと			(約2.0h)
復習	3つの「生物の多様性」、即ち「遺伝子・種・生態系」の多様性について要領よく解説ができるようにしておくこと			(約2.0h)
8. 生物多様性の危機 ～世界と日本のビオトープ破壊の現状～ 全国規模・地球規模で生物多様性が破壊されている現状を具体的に学ぶ				
予習	「ビオトープの保全および再生」の事例について、予めインターネット等で調べておくこと			(約2.0h)
復習	4つの「生物多様性の危機」について、「日本のビオトープ破壊の現状」について要領よく解説ができるようにし			(約2.0h)

○授業計画	科目名 担当教員	自然生態学 (Natural ecology) 中西 章敦	授業コード	L121001
学修内容				
9. 生物多様性をまもる基礎知識 ～ビオトープ再生のために～ 生物多様性保全にはビオトープ(動植物のすみか)の再生が必要であることを学ぶ				
予習	「生物多様性」にかかわる条約について、予めインターネット等で調べておくこと			(約2.0h)
復習	「ビオトープ再生のための具体的手順および法則」について、要領よく解説ができるようにしておくこと			(約2.0h)
10. 生物多様性をまもる制度① ～生物多様性条約・ラムサール条約など～ 生物多様性を守る世界の条約(ルールや制度)を具体的に学ぶ				
予習	「生物多様性」にかかわる法律について、予めインターネット等で調べておくこと			(約2.0h)
復習	「生物多様性」にかかわる条約の具体的事例について、要領よく解説ができるようにしておくこと			(約2.0h)
11. 生物多様性をまもる制度② ～生物多様性基本法・外来生物法など～ 生物多様性を守る日本の法律(ルールや制度)を具体的に学ぶ				
予習	「生物多様性を保全・再生している都市公園」の事例について、予めインターネット等で調べておくこと			(約2.0h)
復習	「生物多様性」にかかわる法律の具体的事例について、要領よく解説ができるようにしておくこと			(約2.0h)
12. 生物多様性をまもる技術① ～大分県の生態工学事例1:都市公園～ 「大分県立スポーツ公園」の緑がなぜ豊かなのか?その理由を探る				
予習	「生物多様性を保全・再生している都市の中心市街地」の事例について、予めインターネット等で調べておくこと			(約2.0h)
復習	「大分県立スポーツ公園」の環境面からの特徴を要領よく解説ができるようにしておくこと			(約2.0h)
13. 生物多様性をまもる技術② ～大分県の生態工学事例2:都市中心街～ 「大分市駅前通り」の緑がなぜ豊かになったのか?その理由を探る				
予習	「生物多様性を保全・再生している都市の里山環境」の事例について、予めインターネット等で調べておくこと			(約2.0h)
復習	「大分市駅前通り」の環境面からの特徴を要領よく解説ができるようにしておくこと			(約2.0h)
14. 生物多様性をまもる技術③ ～大分県の生態工学事例3:里山環境～ 県内初!「生きものを育むたんぼ」をなぜ実現できたのか?その理由を探る				
予習	「持続可能な開発」および「SDGs」について、予めインターネット等で調べておくこと			(約2.0h)
復習	「竹田市岡本地区」の環境面からの特徴を要領よく解説ができるようにしておくこと			(約2.0h)
15. 生物多様性の世紀(まとめ1) 【総括レポートの予告】 21世紀は「持続可能な開発・地域づくり」の時代であることを理解する				
予習	これまでの本講座で学んだこと・そこで気づいたこと等を、800字程度にまとめてみる			(約2.0h)
復習	「持続可能な開発」「SDGs」の達成が「人類の危機」を救うことになることを要領よく解説ができるようにしておく			(約2.0h)
16. 総括レポートの提出とアドバイス これまでの受講生の成果に関するアドバイスを可能な限り個々に行う				
予習	今後、建築・土木関係に活かすことができる「生物多様性保全」重視型の多くの事例をインターネット等で調べ			
復習	担当教員から受けた「環境保全」に関するこれまでのアドバイスの意味を、ふりかえってみる			

2022年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	地域再生論 (Community Revitalization)		
ナンバリングコード	L30108	大分類 / 難易度 科目分野	建築学科 専門科目 / 応用レベル 環境・地域
単位数	2	配当学年 / 開講期	3年 / 前期
必修・選択区分	必修 ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	L010801	クラス名	-
担当教員名	島岡 成治、池畑 義人、吉村 充功、池見 洋明、中西 章敦		
履修上の注意、履修条件	特にありません。 講義に遅刻、欠席することなく毎回出席して下さい。		
教科書	特にありません。		
参考文献及び指定図書	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ブランドと魅力あるまちづくり (学芸出版社) 佐々木一成 著 ・地域再生学 (晃洋書房) 湯浅良雄・山本修平・崔英靖 編著 ・地域創生への挑戦 (有斐閣) 清成忠男 著 		
関連科目	自然生態学、環境水理学、日本建築史、都市計画、ランドスケープ		

○基本情報							
授業の目的	少子化・高齢化が進む日本では、住民の生活が立ち行かなくなりつつある地域が地方を中心に顕在化しています。そのため、豊かな自然や伝統文化、地域の特性を活かした地場産業など、これまで魅力あふれ、独自性を発揮してきた地域が衰退する事態を引き起こしています。これから建築分野で活躍する皆さんは、これまで以上に地域の実情、特性を理解した上で、地域に必要とされ、地域再生に役立つ建築物を構築、保全していく能力が求められます。本講義では、地域づくりの成功事例など具体的な取り組みを中心に理解し、これからの建築学の基礎となる地域再生の考え方や思考法を修得することを目的とします。						
授業の概要	本講義では、地域再生の手法を体系立てて学ぶだけでなく、実際に地域再生に携わる方々の視点での講義や教員が関わった地域での体験談、成功・失敗体験を聴く機会を多く設けます。体系と具体例を学ぶことで、地域再生に共通するキーを知り、建築学の視野を広げていくようにします。						
授業の運営方法	<table border="1"> <tr> <td>(1) 授業の形式</td> <td>「講義形式」</td> </tr> <tr> <td>(2) 複数担当の場合の方式</td> <td>「オムニバス方式」</td> </tr> <tr> <td>(3) アクティブ・ラーニング</td> <td>「ディスカッション、ディベート」</td> </tr> </table>	(1) 授業の形式	「講義形式」	(2) 複数担当の場合の方式	「オムニバス方式」	(3) アクティブ・ラーニング	「ディスカッション、ディベート」
(1) 授業の形式	「講義形式」						
(2) 複数担当の場合の方式	「オムニバス方式」						
(3) アクティブ・ラーニング	「ディスカッション、ディベート」						
地域志向科目	カテゴリー III: 地域における課題解決に必要な知識を修得する科目						
実務経験のある教員による授業科目	中西章敦(大分県土木建築部における大分県の道路・河川・地域づくりに関する行政) 「地域における河川等自然環境と地域創生に関する講義」						

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】				
【知識・理解】	①地域コミュニティ、地域経済、地域資源の現状を正しく理解できる ②地域特性ごとの具体的な地域再生の事例を理解している ③地域再生の手法を正しく理解できる	30点	20点	
【技能・表現・コミュニケーション】				
【思考・判断・創造】	④地域再生の手法を用いて、地域特性にあった地域再生の方法を提案できる	30点	20点	

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)
各担当教員よりレポートを課します。その内容を到達目標に照らして、評価対象とします(各教員8点)。レポートについては、原則として次回以降の授業中に返却し、講評・解説します。また、各担当教員より期末試験問題を出題します。その内容を到達目標に照らして、評価対象とします(各教員12点)。

○その他

2022年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名	地域再生論 (Community Revitalization)	授業コード	L010801
	担当教員	島岡 成治、池畑 義人、吉村 充功、池見 洋明、中西 章敦		
学修内容				
1. 地域コミュニティの現状と地域再生 (担当: 池畑) ■地方分権 ■市町村合併 ■高齢化 ■限界集落 日本特に地域社会はこれまでに経験したことの無い時代を迎えようとしています。上にあげた内容によりながら、日本の地方の現状と課題について講義します。				
予習	人口減少と高齢化社会が地域に及ぼす影響について、可能な限り調べる。			約2時間
復習	講義を踏まえ、地域の豊かさに何が必要か、それぞれ自分の考えをまとめる。			約2時間
2. 地方経済の現状と地域再生 (担当: 吉村) ■地場産業 ■6次産業化 ■地域振興 地域振興・地域活性化を考える上で、地域経済や自治体の現状や課題を知ることが重要です。本授業では、まず自治体がまちづくりの観点から課題と考えていること及び現在進行形の地方創生政策を解説します。次に、大分及び九州の経済の特徴や状況を図表から理解し、地方再生を考える前提となる現状について理解します。Googleフォームの使用及びペアワークを行います。				
予習	まち・ひと・しごと創生総合戦略とは何か。概要について調べて下さい。			約2時間
復習	RESAS(地域経済分析システム)を使用し、授業内で指定したテーマについて地域の現状をまとめて下さい。			約2時間
3. 地域ブランドと特産物ブランドへの取り組み (担当: 吉村) ■ブランドとは ■地域ブランドの種類 ■「関あじ関さば(大分市)」を中心に 地域再生において、その地域の特産品や資源を活用することが重要です。本授業では、地域ブランドの概要及びそれを活かした政策について解説します。また、地域ブランドを保護する政策として「地域団体商標」を取り上げ、その活用例として大分市佐賀関地区の取り組みについて解説します。地域ブランドを活かした地域再生法について理解します。				
予習	地域団体商標とは何か。概要について調べて下さい。			約2時間
復習	地域団体商標及び地域ブランドを活かした活性化策についてレポートを課します。			約2時間
4. 観光ツーリズムへの取り組み (担当: 吉村) ■「由布院のまちづくり(由布市)」を中心に 地域再生の切り札として、観光振興・観光ツーリズムが注目されています。本授業では、まず観光政策の現状について解説します。次に最近のツーリズムの形態の変化や地域ツーリズムの具体的な分野について解説します。観光ツーリズムの先進地として有名な由布院のまちづくりを事例に観光ツーリズムを活かした地域再生法について理解します。				
予習	訪日観光客の現状について調べて下さい。			約2時間
復習	由布院のまちづくりをテーマにレポートを課します。			約2時間
5. アートによる地域づくり (担当: 島岡) ■アートとは ■日本各地の例 ■「大分市」と「別府市」における活動と可能性 近年日本各地では、新しい美術館活動、芸術祭など芸術活動を起爆剤としたによるまちづくりや地域づくりが見られます。上にあげた内容によりながら、アートによる地域づくりの可能性と課題について講義します。				
予習	アートによる地域づくりとはどのようなことか、いくつか具体例を調べておく。			約2時間
復習	大分市において、どのようなアートによる地域づくりが可能か、自分の考えをまとめる。			約2時間
6. 景観形成 (担当: 島岡) ■景観とは一真鶴町と「美の条例」 ■景観法と景観条例－事例と課題 ■いくつかの景観論争から学ぶこと まちは変化していきますが、その中ですぐれた景観形成のためにどのようなことが問題となってきたか、そしてどのような課題があるかについて講義します。				
予習	景観形成や景観保全とはどのようなことか調べる。			約2時間
復習	時代の変化の中ですぐれた景観を形成することの可能性と課題について、自分の考えをまとめる。			約2時間
7. 歴史的まちづくり (担当: 島岡) ■歴史的町並みの保存の例 ■大分県における小城下町や昭和の町(豊後高田市)における事例 ■まちにおける「歴史」の意味 上にあげた内容によりながら、まちの空間の豊かさにおける歴史的蓄積の意味について講義します。				
予習	歴史的町並み保全においてどのようなことが行われているのか、具体例をあげ調べておく。			約2時間
復習	歴史的にあるいは現代的に魅力的なまちを例に挙げ、まちの魅力とは何か、自分の考えをまとめる。			約2時間
8. 地域資源を災害から考える (担当: 池見) ■地域再生や地方創生といった言葉の裏では、過疎化、限界集落、地方都市消滅、都市の過密化という問題が見え隠れします。この回では、このような視点から地域再生を支えるであろう地域資源とは何かについて考えます。その中でリスボン地震や明治維新などについて、別の観点から紹介します。				
予習	地域資源とはなにかを考察し、自分なりの考えをまとめる。			約2時間
復習	防災という観点から地域資源とは何かをまとめる。			約2時間

○授業計画	科目名	地域再生論 (Community Revitalization)	授業コード	L010801
	担当教員	島岡 成治、池畑 義人、吉村 充功、池見 洋明、中西 章敦		
学修内容				
9. グスコープドリの世界から考える地域資源 (担当: 池見) ■1995年の兵庫県南部地震(阪神淡路大震災)では国内の防災への考え方が大きく変わり、ハードによる防災からソフトによる防災／減災という言葉が生まれました。自助や共助、自己責任といった言葉が出てきたのもこの頃です。そして東北地方太平洋地震(東日本大震災)では、減災が一般化して、さらに国土強靱化というスローガンが新たに加わっています。このような国内の防災に対する考え方の変化について、宮沢賢治原作の「グスコープドリの伝記」を例えにして解説し、地域資源とはなにかを考えます。				
予習	「グスコープドリの伝記」を読む。			約2時間
復習	「グスコープドリの伝記」を防災という観点から読み直す。			約2時間
10. ミティゲーションとレジリエンス (担当: 池見) ■その2と同様に、この回でも、宮沢賢治原作の「グスコープドリの伝記」を例えにして解説し、地域資源とはなにかを考えます。また、日本の防災の考え方の基本は消防だと言われてます。その問題点に対して、ミティゲーションとレジリエンスをキーワードにして、大分県の斜面災害から米国の災害管理サイクルモデル、欧州の圧力緩和災害モデルについて考えます。				
予習	「グスコープドリの伝記」を防災という観点から読み直す。			約2時間
復習	これまで講義から災害という観点から地域資源とは何かについてレポートにまとめる。			約2時間
11. 生物多様性の保全の取り組み (担当: 中西) ■世界・日本・大分県・県内市町村における生物多様性の保全 生物多様性の保全が叫ばれて久しく、SDGsの中でも生物多様性の保全が謳われている。これまでの世界的な生物多様性の保全に関する取り組みから、日本、大分県、大分県内の市町村単位での実際の取り組みについて学び、自分たちが地域単位で取り組める活動について考えます。				
予習	生物多様性国家戦略について調べる。			約2時間
復習	生物多様性の保全に関するレポートを課します。			約2時間
12. 防災と利用、自然環境の保全を両立させた地域再生 (担当: 中西) ■河川法の変遷に見る防災、自然利用、環境保全とグリーンインフラについて 昨今多発、激甚化する災害の復旧について、かつては防災と自然環境保全は相反するものであったが、河川法改正に伴い進んだ多自然型川づくり、それをさらに進めた形で取り組まれている多自然川づくりを例に、防災インフラの整備と自然環境保全の両立の現在、近年注目されているグリーンインフラの内容とその必要性について、大分県内の事例をもとに学習します。				
予習	河川法の変遷と多自然川づくりについて調べる。			約2時間
復習	グリーンインフラについてのレポートを課します。			約2時間
13. 自然環境の利用と保全 (担当: 中西) ■里山の保全と森里海川の連携 人間が生活することで自然環境の価値が向上する里山。この人間と自然との共存の考え方をもとに山域部の里地・里山から海域に至っては里海として同様の考え方が広がってきています。これら里山の保全の必要性と、森は海の恋人活動などをはじめとした山域から海域に至る連携について、大分県内の事例をもとに学習します。				
予習	SATOYAMAイニシアティブについて調べる。			約2時間
復習	里地・里山・里海保全に関するレポートを課します。			約2時間
14. 「共助社会づくり」による新たな地域づくり (担当: 池畑) ■NPOによる地域づくり これからの地域づくりを考える上では、自助・共助・公助のそれぞれの考え方を理解し、上手に組みあわせていくことが重要です。その橋渡し役として、NPOの存在が重要となっています。本授業では、まず共助社会づくりの現状について解説します。次にその中心となるNPOについて、その概要及び事例を解説します。NPOを活用した地域再生法について理解します。				
予習	「世界農業」の仕組み、および「世界遺産」との相違について事前に学習し、その要点をまとめる			約2時間
復習	「世界農業遺産」による地域再生の他の複数の事例も調査して、その特徴と課題を明確にする			約2時間
15. 魅力ある地域づくりのために (担当: 全教員) ■シンポジウム ■住民生活の再生 ■生活・文化 ■防災と自然環境 ■創造と活動				
予習	これまでの授業内容についてまとめ、疑問点を整理して下さい。			約2時間
復習	シンポジウムを踏まえて、授業内容から学んだことをあらためて整理して下さい。			約2時間
16. 期末試験 試験時間90分。				
予習				
復習				

授業科目	大分の観光と文化 / Tourism and Culture of Oita		
担当教員 (所属)	晴谷 憲洋(国際総合学科), 宮野 幸岳(国際総合学科)		
開講時期	前期	必修・選択	選択
単位	2単位	授業形態	講義
対象所属	国際総合学科	対象学年	1年, 2年
授業の目的・到達目標			
<p>専門分野を異にする(観光学・歴史学)国際総合学科教員2名が、その専門領域を生かしながら、「大分の観光と文化」についてオムニバス形式の講義を行う。大分の観光振興に活躍するゲスト講師の講義も予定している。この授業の目的は以下のとおりである。</p> <p>大分の観光や文化についての基礎的な知識を身につける。</p> <p>地元出身者にも意外に知られていない観光資源としての大分の魅力を再認識する。</p> <p>観光振興の戦略や問題点について認識する。</p> <p>大分の観光振興について主体的に考える態度を養う。</p>			
各回の授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 観光県おおいたの基礎知識 (晴谷) 3. 観光県おおいたの基礎知識 (晴谷) 4. 大分の観光・文化と国際交流史～南蛮文化と大分 ～(晴谷) 5. 大分の観光・文化と国際交流史～南蛮文化と大分 ～(晴谷) 6. 大分の観光・文化と国際交流史～南蛮文化と大分 ～(晴谷) 7. 大分の国際交流と観光(外部講師・予定) 8. 郷土の歴史と観光(学外実習・予定) 9. 大分の環境と観光(宮野) 10. 大分のスポーツと観光(外部講師・予定) 11. 大分の観光における現状理解(宮野) 12. 統計学基礎と観光戦略立案の手法(宮野) 13. 大分の観光振興における課題(宮野) 14. 観光振興の実務(外部講師・予定) 15. まとめ <p>スケジュールは変更する場合があります。</p>			
準備学習等			
各担当教員が講義中に指示します。			
成績評価の方法・基準			
各教員が課すレポート(70%)と平常点(30%)で評価します。			
教科書			
講義中に資料やプリントを配布します。			
参考図書			
辻野功『大分学』『大分学』明石書店 辻野功/橋本謙司/大分学研究会(編著)『まるごとわかる大分県』明石書店			
履修の条件・注意事項			
<p>日頃から、大分の観光情報や観光スポットについて意識しておくこと。また、履修評価の必須条件ではありませんが、県内外、国内外の観光動向に関わる情報をファイリングしておくことを推奨します。</p> <p>また、学外講師の都合等により、講義の順序・形態が変更されることがあります。</p> <p>C-learningを用いて通知しますので注意してください。</p>			

授業科目	産業・組織心理学 / Industrial and Organizational Psychology		
担当教員 (所属)	吉山 尚裕 (情報コミュニケーション学科)		
開講時期	前期	必修・選択	選択
単位	2単位	授業形態	講義
対象所属	情報コミュニケーション学科	対象学年	2年
授業の目的・到達目標			
<p>20世紀初頭に誕生した「産業心理学」は、組織への関心の高まりに伴い、「産業・組織心理学」へと発展しています。この授業では、企業や官公庁などの組織を念頭におき、働く人間と職場集団に関する心理学的理解を深めることを目的とします。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 組織の人間行動を記述・説明するための概念 (用語) や理論を理解している。 2) 習得した概念や理論を使って、組織の人間行動について説明できる。 3) 産業・組織心理学的な考え方を社会生活に活かすことができる。 			
各回の授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 事例研究：後回しにされた仕事 3. 組織とは何か 4. 科学的管理法 5. 人間関係論 6. 行動科学 (動機づけと職務設計) 7. グループ・ダイナミクス 8. 集団の規範と凝集性 9. 事例研究：報告を怠ったとき 10. リーダーシップとは何か 11. リーダーシップの理論 12. リーダーシップの効果 13. 組織における意思決定 14. 意思決定の落とし穴 15. まとめ 			
準備学習等			
<p>事前にCラーニングで配布するパワーポイント (配布資料) を予習や復習に活用しよう。働く人間や組織を取り上げた新聞記事やテレビ番組を見よう。授業で紹介する本を読もう。</p>			
成績評価の方法・基準			
平常点 (40%) と期末テスト (60%)			
教科書			
教科書は使用しません。			
参考図書			
<p>外島裕・田中堅一郎編「産業・組織心理学エッセンシャルズ」(ナカニシヤ出版) 山口裕幸編「コンピテンシーとチーム・マネジメントの心理学」(朝倉書店)</p>			
履修の条件・注意事項			
<p>毎回、授業の終わり頃、「ミニレポート」の提出を求め、平常点とします。教室で授業を行う場合は、質問や応答をしやすいように座席指定を行います。</p>			

授業科目	ヨーロッパの文化と社会 / Culture and Society of Europe		
担当教員 (所属)	高瀬 圭子(国際総合学科), 前山 悠(国際総合学科)		
開講時期	前期	必修・選択	選択
単位	2単位	授業形態	講義
対象所属	国際総合学科	対象学年	2年
授業の目的・到達目標			
<p>中央ヨーロッパのドイツ語圏と、西ヨーロッパに位置するフランス共和国を主な対象として取り上げ、それぞれの文化と社会の諸相について理解することを目的とする。前半では、まずEUとドイツ語圏について概観し、次いでドイツを中心に、中世から現代に至る歴史と、その中で生み出された芸術文化について、社会との関わりの中で論じてゆく。特に、二つの世界大戦の前後の状況に焦点をあててゆくことにしたい。後半では、フランス語圏の文化と歴史を扱う。フランス・スイスを中心に、言語、宗教、政治、人種、芸術、ジェンダーなど、様々な観点から他文化理解を図る。</p> <p>到達目標は次の通り。</p> <p>ドイツ語圏の国々の文化、社会、歴史について、基本的な知識を得る。 フランス語圏の文化や社会について基本的な知識を得る。 ヨーロッパ文化の諸相を知ることを通じて、多様な文化を理解し、尊重する態度を身につける。</p>			
各回の授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 全体ガイダンス 2. EU、ヨーロッパのドイツ語圏 3. ドイツの文化と社会I : 地方分権の伝統 4. ドイツの文化と社会II : 政治的統一と文化 5. ドイツの文化と社会III : 大戦間期のドイツ 6. ドイツの文化と社会IV : 第二次世界大戦とホロコースト 7. ドイツの文化と社会IV : 第二次世界大戦とホロコースト 8. ドイツの文化と社会V : 戦後ドイツの社会 9. 「共通語」の歴史—ラテン語から 에스ペラント語まで 10. 宗教改革—カトリックとプロテスタント 11. フランス革命、その光と闇 12. ギロチンと死刑制度の歴史 13. ドレフュス事件、ユダヤ人問題 14. スイスの精神病院と芸術の関係 15. フランスのパートナーシップ制度—PACS、同性婚、養子縁組 			
準備学習等			
授業内で紹介する、ドイツやフランスに関わる本を積極的に読んでください。			
成績評価の方法・基準			
前半(50点)と後半(50点)の成績を総合して、評価します。			
<p><ドイツ> 平常点60%(コメントペーパー・提出課題)、レポート40% 初回の全体ガイダンスにて詳細を説明します。</p> <p><フランス> 平常点60%(コメントペーパー等)、レポート40% レポートについては、初回の全体ガイダンスの際に説明します。</p>			
教科書			
教科書は使用しません。			
参考図書			
<p>森井裕一編著『ドイツの歴史を知るための50章』、明石書店、2016年。 宮田眞治・畠山寛・濱中春編著『ドイツ文化55のキーワード』、ミネルヴァ書房、2015年。 柴田三千雄『フランス史10講』、岩波新書、2006年。 田村毅監修・鈴木雅生・福島勲編、『フランス文化読本』、丸善出版、2014年。 『パリ、ジュテーム』、DVD、2006年。</p>			
履修の条件・注意事項			
<p>ドイツ語・フランス語の授業を履修していなくても受講できます。 成績評価を受けるためには、出席状況が規定を満たしている必要があります。 初回は、担当教員二人による全体のガイダンスを行いますので、必ず出席してください。</p>			

授業科目	近現代世界の歴史 / History of the Modern World		
担当教員 (所属)	疇谷 憲洋 (国際総合学科)		
開講時期	前期	必修・選択	選択
単位	2単位	授業形態	講義
対象所属	国際総合学科	対象学年	2年
授業の目的・到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今日の世界情勢につながる現代史の展開について、基本的概念と基礎知識を習得する。 ・ 日本と世界の現代史について、一冊のテキストに則して深く学習することを通じて、世界の様々な事件や事象に関して、批判的かつ理性的に考える態度を身に付ける。 			
各回の授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 2022年：「いま」と歴史 2. 占領下の日本 3. 占領下の日本 4. そのころ世界は 5. 冷戦と講和 6. 冷戦と講和 7. そのころ世界は 8. 高度成長の時代 9. 高度成長の時代 10. そのころ世界は 11. 経済大国への道 12. 経済大国への道 13. そのころ世界は 14. 現代の世界と日本 15. 現代の世界と日本 			
準備学習等			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義内容で分からないところは教科書・プリントで再確認してください。 ・ 自分のこれまでの人生で、世界で起こった出来事について想起しておいてください。 			
成績評価の方法・基準			
小レポート (40%) と、まとめレポート (70%) で評価します。			
教科書			
教科書：老川慶喜『もう一度読む山川日本戦後史』山川出版社			
参考図書			
『もう一度読む山川世界史』山川出版社 NHK『映像の20世紀』(DVD、本学図書館所蔵)			
履修の条件・注意事項			
日ごろから、政治・経済関連のニュースに興味を持っておいてください。			

科目コード	科目名	実務経験のある教員による授業	地域志向	単位	担当者	関連資格			
						生活	療法	樹木	フラウ
38 S K 11 AL	ガーデニング概論		地域力	2	摺崎宏	◎	○		
学習成果	学習成果 5)応用的専門知識								
授業の概要	各地の庭を訪れて緑や花を楽しんだり、自宅でベランダ園芸や家庭菜園を楽しんだり、ガーデニングは日々の生活に密着しており、私たちの心を豊かにしてくれる。また、ガーデニングは人と人との心の絆を深め、地域連携のコミュニケーションツールとしての役割も期待されている。本講座では、様々なガーデンスタイルとガーデニングに関する基本的な知識・技術(基準地:大分)を学ぶ。								
授業の形式	講義(アクティブラーニングを含む)								
到達目標と対応する学習成果	① 世界の庭の歴史と様式について説明することができる					学習成果 5)応用的専門知識			
	② 大分における季節ごとの園芸作業のポイントについて説明することができる					学習成果 5)応用的専門知識			
	③								
	④								
	⑤								
	⑥								
履修上の注意点/試験やレポート等に対するフィードバックの方法	・各回の授業でレポート課題がある。毎回のレポートは返却する。 ・「生活園芸士」資格を希望するものは必ず履修し、単位修得しなければならない。 ・Google Classroomを利用して授業(資料配布、課題提出)を行うので各自登録すること。								
評価の方法と基準	各回のレポート、定期試験で評価する。 学習成果5)応用的専門知識100点 (到達目標①50点、到達目標②50点。それぞれレポート80%、定期試験20%)								
教科書	適宜、プリントを配布する								
参考書	・ ・ ・								
授業計画	回	授業内容			アクティブラーニング	授業以外の学習(予習・復習などの具体的内容及びそれに必要な時間)			
	1	ガーデニングの定義:ガーデニングの定義を考え、まとめる			○	講義終了後にレポート作成し(1時間)次の授業で提出すること。また、今回の授業について、書籍やインターネットを利用して予習(1時間)しておくこと。			
	2	ガーデニングの歴史とスタイル①:イングリッシュガーデン				講義終了後にレポート作成し(1時間)次の授業で提出すること。また、今回の授業について、書籍やインターネットを利用して予習(1時間)しておくこと。			
	3	ガーデニングの歴史とスタイル②:プラントハンターの役割				講義終了後にレポート作成し(1時間)次の授業で提出すること。また、今回の授業について、書籍やインターネットを利用して予習(1時間)しておくこと。			
	4	ガーデンの種類①:イギリスのガーデンスタイル(ナショナルトラスト)				講義終了後にレポート作成し(1時間)次の授業で提出すること。また、今回の授業について、書籍やインターネットを利用して予習(1時間)しておくこと。			
	5	ガーデンの種類②:イギリスのガーデンスタイル(ナショナルトラスト)				講義終了後にレポート作成し(1時間)次の授業で提出すること。また、今回の授業について、書籍やインターネットを利用して予習(1時間)しておくこと。			
	6	ガーデンの種類③:イギリスのガーデンスタイル(ベスタチャーガーデン)				講義終了後にレポート作成し(1時間)次の授業で提出すること。また、今回の授業について、書籍やインターネットを利用して予習(1時間)しておくこと。			
	7	ガーデンの種類④:イギリスのガーデンスタイル(イエローブック)				講義終了後にレポート作成し(1時間)次の授業で提出すること。また、今回の授業について、書籍やインターネットを利用して予習(1時間)しておくこと。			
	8	ガーデンの種類⑤:世界遺産の庭園				講義終了後にレポート作成し(1時間)次の授業で提出すること。また、今回の授業について、書籍やインターネットを利用して予習(1時間)しておくこと。			
	9	ガーデンの種類⑥:中国の庭園				講義終了後にレポート作成し(1時間)次の授業で提出すること。また、今回の授業について、書籍やインターネットを利用して予習(1時間)しておくこと。			
	10	ガーデニングの基本:ガーデニングに用いる道具、基本的作業				講義終了後にレポート作成し(1時間)次の授業で提出すること。また、今回の授業について、書籍やインターネットを利用して予習(1時間)しておくこと。			
	11	春のガーデニング:春のガーデニング作業のポイント(基準地:大分)				講義終了後にレポート作成し(1時間)次の授業で提出すること。また、今回の授業について、書籍やインターネットを利用して予習(1時間)しておくこと。			
	12	夏のガーデニング:夏のガーデニング作業のポイント(基準地:大分)				講義終了後にレポート作成し(1時間)次の授業で提出すること。また、今回の授業について、書籍やインターネットを利用して予習(1時間)しておくこと。			
	13	秋のガーデニング:秋のガーデニング作業のポイント(基準地:大分)				講義終了後にレポート作成し(1時間)次の授業で提出すること。また、今回の授業について、書籍やインターネットを利用して予習(1時間)しておくこと。			
	14	冬のガーデニング:冬のガーデニング作業のポイント(基準地:大分)				講義終了後にレポート作成し(1時間)次の授業で提出すること。また、今回の授業について、書籍やインターネットを利用して予習(1時間)しておくこと。			
	15	様々なガーデンスタイル:ハンギングバスケットのポイント(基準地:大分)				講義終了後にレポート作成し(1時間)提出すること。定期試験対策をすること。			
16	定期試験(試験時間は60分)								

科目コード	科目名	実務経験のある教員による授業	地域志向	単位	担当者	関連資格			
						生活	療法	樹木	フラワ
56 S K 21 HT	園芸療法 I	○	地域力	2	小石鉄兵 (欠)		◎		
学習成果	学習成果 5) 応用的専門知識								
授業の概要	園芸療法では、植物が人に与える効能について、福祉的かつ療法的視点で学ぶ内容である。また、園芸療法士を目指す学生の入門編として位置づけられており、園芸療法の基礎を総論的に学ぶことをねらいとする。すなわち、園芸療法とは何か、園芸療法はどんな場でどのように活用されるか、園芸療法はなぜ効果を期待できるかについて理解を促し、園芸療法を実施する療法士としての心構えを養成する。								
授業の形式	講義を中心に行う。合わせてグループによるワークショップも実施する。								
到達目標と対応する学習成果	① 植物が人に与える効能について、福祉的かつ療法的に活用し期待される効果を説明できる						学習成果 5) 応用的専門知識		
	② 園芸療法の原理と原則を説明できる						学習成果 5) 応用的専門知識		
	③								
	④								
	⑤								
	⑥								
履修上の注意点/試験やレポート等に対するフィードバックの方法	講義では、グループワークを活用して展開するため、班のメンバーに負担がかからないように、健康管理に十分注意して受講してほしい。フィードバックについては、その都度、口頭およびホワイトボードを用いて行う。								
評価の方法と基準	学習成果 5) 100点 (内訳: 発表(アクティブラーニング) 50点分 (回数によって点数は案分)、定期試験 50点分)								
教科書	適宜資料を配布する。								
参考書	・山根 寛ほか「園芸リハビリテーション」 医歯薬出版								
	・								
	・								
	・								
授業計画	回	授業内容			アクティブラーニング	授業以外の学習(予習・復習などの具体的内容及びそれに必要な時間)			
	1	園芸療法とはなにか			○	予習を30分以上、復習を1時間以上取り組むこと			
	2	園芸療法から植物介在療法へ				予習を30分以上、復習を1時間以上取り組むこと			
	3	園芸療法の歴史的展開				予習を30分以上、復習を1時間以上取り組むこと			
	4	諸外国における園芸療法①				予習を30分以上、復習を1時間以上取り組むこと			
	5	日本における園芸療法				予習を30分以上、復習を1時間以上取り組むこと			
	6	園芸療法の対象者 1) 心身に療法的かかわりが必要な人①			○	予習を30分以上、復習を1時間以上取り組むこと			
	7	園芸療法の対象者 1) 心身に療法的かかわりが必要な人②			○	予習を30分以上、復習を1時間以上取り組むこと			
	8	園芸療法の対象者 2) 高齢者で療法的かかわりが必要な人①			○	予習を30分以上、復習を1時間以上取り組むこと			
	9	園芸療法の対象者 2) 高齢者で療法的かかわりが必要な人②			○	予習を30分以上、復習を1時間以上取り組むこと			
	10	園芸療法の実施計画 プログラム、実施、評価(基礎)			○	予習を30分以上、復習を1時間以上取り組むこと			
	11	対象者の情報収集				予習を30分以上、復習を1時間以上取り組むこと			
	12	園芸療法プログラム			○	予習を30分以上、復習を1時間以上取り組むこと			
	13	プログラムの実践、実施後の評価				予習を30分以上、復習を1時間以上取り組むこと			
	14	園芸療法の可能性				予習を30分以上、復習を1時間以上取り組むこと			
	15	留意事項・まとめ				予習を30分以上、復習を1時間以上取り組むこと			
16	定期試験								

back					
授業科目名 [単位数]					
地域固有の観光要素の発見 [2]					
担当教員名 (授業形態)					
姫野 由香 (単独)					
実務経験	なし	資格、免許又は実務経 験等			
共同担当教員名					
受講対象	食栄1		履修法	講義	開講期
学科等	専門教育科目		学びの三要素	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・技能 <input type="checkbox"/> 主体性・意欲 <input type="checkbox"/> 就業力・協働	
アクティブラーニングの要素					
<input type="checkbox"/> PBL (課題解決型学習)		<input type="checkbox"/> 反転授業	<input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション、討論、ディベート		<input type="checkbox"/> グループワーク
<input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション、発表		<input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 実験、実技		
科目の到達目標					
①紹介する地域や都市の特性を如何にして理解したら良いかが分かる。 ②地域や都市の全体像を理解し、別府の地域特性を説明できる。 ③顧客対応に利用する情報をストックし整理することができる。 ④別府の街づくりや特色ある産業について他地域と比較し説明できる。					
授業の目的・概要					
「温泉コンシェルジュ修了証取得の為の必修科目」 コンシェルジュが提供する情報は、標準的な情報に各コンシェルジュの個性が反映されることにより、一層魅力的なものとなります。このためには、コンシェルジュ自身が、紹介しようとする「地域」の特性をよく理解し、地域資源を発見する目を養うことが大切です。この発見力は、顧客の満足度を上げるだけではなく、地域資源を育むことにもつながります。本授業では、まず「地域」を理解する上で重要となる着眼点を整理し、別府という地域の特性を「まちづくり」と「景観」の傾向から理解し、地域の情報のストック方法を学びます。学生はパソコンを用いて自身も作業しながらすすめていきます。					
ディプロマポリシーとの関係					
心と体の癒し (いやし) のために必要な観光資源の発見や課題改善の提案について、温泉観光地である別府を例に検討する。					
授業計画					
1. 「地域とは・都市とは」について学ぶ。 1) 地域・都市の誕生と定義 (1 時限) 2) 地域・都市計画の機能と役割 (2 時限) 3) 別府の地域・都市計画の特徴 (3 時限) 2. 「まちづくりとは」について学ぶ。 1) まちづくりの定義と各地のまちづくり (4 時限) 2) 別府のまちづくりの特徴 (5 時限) 3) 特定エリアを再生するまちづくりの要件 (6 時限) 3. 観光資源としての景観について学ぶ。 1) 別府の地域資源や産業の特徴と景観の関係 (7 時限～8 時限) 2) 別府の景観の特徴 (9 時限～10 時限) 4. おすすめ風景カルテの作成と活用について学ぶ。 1) おすすめ風景カルテの検討と作成・適宜フィールドサーベイ (11 時限～14 時限) 2) カルテを用いた情報提供の実践 (15 時限)					
筆記試験は実施しない					
認定試験	実施しない				
準備学習 (予習・復習)	最終発表会では、SNS (InstagramまたはFaceBook) を使用するので、IDを取得しておくこと。				
評価方法	知識 (選定した資源の画像やSNS投稿の内容) 60%問題解決力 (オリジナリティ) 20% 専門性 (SNS投稿を利用した模擬接客; プレゼンテーション) 20%による総合評価				
基準	S:到達目標を十分に理解できる A:到達目標を理解できる B:到達目標を概ね理解できる C:到達目標を理解できるように努めている				
テキスト	講師が配布した資料を使用する			参考資料教材等	
オフィスアワー	授業時間の前後に教室で受け付けます。			フィードバック	
備考					

back			
授業科目名 [単位数]			
温泉学 [2]			
担当教員名 (授業形態)			
宮崎 博文 (オムニバス)			
実務経験	あり	資格、免許又は実務経験等	工学博士
共同担当教員名			
由佐悠紀, 竹村恵二, 齊藤雅樹			
受講対象	食留1	履修法	講義 開講期 集中
学科等	専門教育科目	学びの三要素	<input checked="" type="checkbox"/> 知識・技能 <input checked="" type="checkbox"/> 主体性・意欲 <input type="checkbox"/> 就業力・協働
アクティブラーニングの要素			
<input type="checkbox"/> PBL (課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、討論、ディベート	<input type="checkbox"/> グループワーク
<input type="checkbox"/> プレゼンテーション、発表	<input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 実験、実技	
科目の到達目標			
①温泉資源の利活用について幅広く実践的な基礎知識を身につけることができる。 ②大分県の温泉、特に別府温泉を題材に温泉の自然と文化を学ぶことができる。 ③温泉県大分の情報発信ができる温泉コンシェルジュをめざすことができる。			
授業の目的・概要			
「温泉コンシェルジュ修了証を取得する為の必修科目」 講師が配布するテキスト及びパワーポイントスライド資料に基づいて講義を進める。特に、温泉コンシェルジュとして必要な知識や経験を身につけることを主眼に置く。地球科学的フィールドワークや温泉分析実習を取り入れながら、知識の習得のみに偏らない総合的な学習をめざす。 また、温泉に関する最新の情報について、講義中に文献やウェブページにより紹介する。			
ディプロマポリシーとの関係			
幅広い教養と豊かな人間性を育む授業 心と体の健康・癒し (いやし) のために、温泉をベースとしたプログラムを提案できる授業			
授業計画			
この科目は、専門分野が多岐にわたることから、各分野を専門とする4人の講師によるオムニバス方式による講義を行う。			
1 温泉科学を学ぶ (I) ①②……由佐悠紀 大分県の温泉、特に別府温泉を題材に、源泉・泉質の分布状況、温泉生成のメカニズムなどのテーマについて地球科学的観点から総合的に温泉を学ぶ。			
2 温泉科学を学ぶ (II) ③④……由佐悠紀 温泉の一般的な諸形態及び大分県の温泉、特に別府温泉の特徴を学び、大分県における温泉の開発と利用の歴史から将来にわたる温泉の利用と資源保護について考える。			
3 温泉の水質科学を学ぶ⑤⑥……宮崎博文 温泉の水質を化学的観点から学習し、温泉の化学成分の分析結果から泉質を決定する手順を学び、別府八湯の泉質の特徴を理解する。また、海水、河川水と同じ環境水としての温泉水の挙動を水質科学的観点から学習する。			
4 別府の地形と地質を学ぶ⑦⑧……竹村恵二 別府の地形と地質の特徴及び温泉への影響について地球科学的な観点から学ぶとともに、多くのスライド写真を用いた解説により理解を深める。また、温泉と農産物の関係にある別府地域の活断層と地震の関係についても学習し、地震災害・津波に備える生活の在り方について考える。			
5 温泉学フィールド調査及び温泉分析実習⑨⑩……竹村恵二、宮崎博文 (複数) 亀川温泉の周辺を踏査し、地球科学的な面から火山的地形、地質、温泉・地獄などを観察する。また、別府温泉を代表する泉質の異なる4か所の温泉水を採取し、簡易測定キットを使って水質測定を行い、別府温泉の泉質の多様性について理解を深める。			
6 別府温泉の魅力、温泉活用法を学ぶ……⑪⑫齊藤雅樹 温泉から見た別府の位置づけと特徴、天然資源としての温泉の活用方法について、近年注目されている機能温泉浴などの多様な入浴様式などの事例を学ぶ。また、温泉地の振興策として温泉道スタンプラリー、温泉マイスター養成、湯けむり発電事業などの新たな取り組みについても学び、これからの温泉地振興のための施策について考える。			
7 温泉と健康を学ぶ……宮崎博文⑬⑭ ヨーロッパで発達した温泉療法の歴史を日本との比較でとらえ、温泉療法が身体にもたらす効能・効果の生理学的メカニズム及び泉質の違いによる適応症・禁忌症を学ぶ。また、近年問題となったレジオネラ症などの温泉の公衆衛生についても学び、安全で安心して利用できる温泉の在り方を考える。			
8 温泉学の概要 (まとめ) ⑮……由佐悠紀 温泉の諸科学についての基本的事項や大分県の温泉、特に別府温泉についての知見や人々の取り組みの様子について、これまでの学習成果をもとに意見交換をし、授業のまとめをする。また、受講した事柄の理解を確認するためにレポートを書く。			
既定試験	実施しない		
準備学習 (予習・復習)	受講生がこれまで見たり体験してきた温泉に関する知見をあらかじめ整理しておくことにより講義への関心が高まる。 また、温泉学を受講後、温泉に関する実践的な知識について受講生自ら実際に温泉地において体得して講義内容を再確認すれば、学習内容の理解が深まる。		
評価方法	授業中の態度・積極性 (70%)、レポート・課題への対応 (30%)		
基準	S:到達目標を十分に理解できる A:到達目標を理解できる B:到達目標を概ね理解できる C:到達目標を理解できるように努めている		
テキスト	講師が配布したテキストを活用する。	参考資料教材等	講義の中で必要に応じて参考文献やウェブページなどを紹介する。
オフィスアワー	授業時間の前後に教室で対応する。なお、集中講義のため時間が取れない場合は、講師がEメール等で対応する。	フィードバック	
備考			

大分工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	農学概論
科目基礎情報					
科目番号	R05AC1002		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	専攻科共通専門科目		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	(教科書)「工業技術者のための農学概論」(森北出版にて復刊予定)				
担当教員	森田 昌孝,帆秋 利洋,高木 浩一,中川 裕子,高橋 徹				
到達目標					
(1) 農業と工学の関係を理解する。(課題, 定期試験) (2) 農業生産物の生産, 管理, 加工, 流通, 安全について理解する。(課題, 定期試験) (3) いきものづくりについて, 技術者の観点から概観できる。(課題, 定期試験)					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
到達目標(1)の評価指標	農業と工学の関係を十分に理解し, 自ら考えを広げていくことができる。	農業と工学の関係を理解している。	農業と工学の関係を理解できていない。		
到達目標(2)の評価指標	農業生産物の生産, 管理, 加工, 流通, 安全について理解し, 論じることができる。	農業生産物の生産, 管理, 加工, 流通, 安全について基礎的に理解している。	農業生産物の生産, 管理, 加工, 流通, 安全について理解していない。		
到達目標(3)の評価指標	いきものづくりについて, 技術者の観点から概観し, 論じることができる。	いきものづくりについて, 技術者の観点から概観できる。	いきものづくりについて, 技術者の観点から概観できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育目標 (E2) JABEE 1.2(d)(1)					
教育方法等					
概要	この科目は, 県や国や企業において農業生産物の生産・管理・加工を担当している教員あるいは担当していた教員が, その経験を活かし, 工業技術者のための農学概論についてオムニバス方式で授業を行うものである。農業生産や加工, 輸送など, 農業をとりまく状況は技術の進展とともに急速に変化しつつある。植物工場による生産や ICT農業など新しい生産のしくみも進んでいる。このような中, 技術者として農学の基礎を修得しておくことは, 将来の技術者としての発展のために有益であるとともに, 農学の素養を持った技術者の育成は, 農業の発展にとっても欠かせない課題となりつつある。このような観点から, 本講義では, 農業と工学の関係, 植物の生理・生産, 土壌管理, 栽培管理, 米や園芸作物, 播種と育苗, 畜産物, 水産物, 加工, 貯蔵, 流通, 安全, バイオ操作までを網羅して概観する。技術者として「いきものづくり」についての基礎理解を得ることを目指す。本科目は, 「アグリエンジニアリング教育」対応科目である。 (科目情報) 教育プログラム 第3学年 O科目 実践的教育科目/AE科目				
授業の進め方・方法	毎回, テキストの各章の著者あるいは対応する専門家が各章の講義を担当します。講義の最後に課題を出します。 (事前学習) テキストを読んで, 疑問点やさらに学びたい点を確認しておくことと良い。				
注意点	(履修上の注意) 講義ごとにレポート課題を提出する。 (自学上の注意) 毎回, 教科書の対応箇所を読んでおくこと。学んだことを通して現実の農業の技術的側面などの事情を観察考察すること。				
評価					
(総合評価方法) 達成目標の(1)~(3)について試験と課題で評価する。 総合評価=定期試験の成績×0.3+課題平均点×0.7 (単位修得の条件) 総合評価が60点以上を合格とする。 (再試験)再試験は原則として行わない。					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	農学と工学 (高木浩一)	農業とは。その歴史, 循環, 農業生産概観。	
		2週	農学を学ぶための生物基礎 (中川裕子)	農学を学ぶための生物基礎の理解。	
		3週	植物の生理と生産 (鈴木健策)	光合成, 呼吸, 環境, 植物の成長と分化。	
		4週	土壌と肥料 (菅野均志)	土壌の三相構造, 肥料, 微生物, 土壌管理。	
		5週	栽培管理 (藤尾拓也)	生育と環境管理, 病害虫, 植物工場。	
		6週	稲作とお米 (黒田栄喜)	稲の一生, 栽培技術の変遷と機械化, 食味と用途	
		7週	園芸作物と生産 (山口健一)	園芸植物分類, 野菜, 果樹, 花卉, 栽培。	
		8週	播種と育苗 (長江嗣朗)	園芸植物の繁殖と育種, 種子, 播種, 育苗。	
	2ndQ	9週	農産物の貯蔵・加工・流通 (小出章二)	穀物, 青果物の貯蔵・加工・流通, LCA。	
		10週	畜産と食 (佐藤れえ子)	畜産と食, 種類, 鮮度, 加工と安全, 流通。	
		11週	水産物と食 (袁春紅)	水産物の種類, 漁業, 養殖, 加工, 流通。	
		12週	食品の安全と食品加工 (折笠貴寛)	食品の種類性質, 機能, 加工, 殺菌, 安全。	
		13週	バイオ操作 (中川裕子)	育種, 組織培養。	

		14週	バイオ操作（坂本裕一），総論まとめ（高木浩一）	微生物，きのこ培養， 総論とまとめふりかえり。
		15週	前期期末試験	到達目標(1)(2)(3)
		16週	前期期末試験の解答と解説	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	定期試験	課題点	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	30	70	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	30	70	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

大分工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	環境化学
科目基礎情報					
科目番号	R05AC2002		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	専攻科共通専門科目		対象学年	専2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	長谷川三雄、「人間と地球環境」、産業図書(株)				
担当教員	帆秋 利洋				
到達目標					
(1) 化学の基礎力をベースに環境問題の現状を把握し、環境保全への関心を抱くことができる。(課題評価)					
(2) 化学的な視点から大気・水・土壌の汚染問題を議論できる。(課題評価)					
(3) 化学物質の循環、越境および管理について理解することができる。(課題評価)					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
到達目標(1)の評価指標	化学の基礎力をベースに環境問題の現状を把握し、環境保全への関心を十分に抱くことができている。	化学の基礎力をベースに環境問題の現状を把握し、環境保全への関心を抱くことができている。	化学の基礎力をベースに環境問題の現状を把握し、環境保全への関心を抱くことができている。		
到達目標(2)の評価指標	化学的な視点から大気・水・土壌の汚染問題を十分に議論できている。	化学的な視点から大気・水・土壌の汚染問題を議論できている。	化学的な視点から大気・水・土壌の汚染問題を議論できている。		
到達目標(3)の評価指標	化学物質の循環、越境および管理について十分に理解できている。	化学物質の循環、越境および管理について理解できている。	化学物質の循環、越境および管理について理解できている。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育目標 (B1) JABEE 1.2(c)					
教育方法等					
概要	(実践的教育科目) この科目は、企業にて環境分野の研究開発を担当していた教員が、その経験を活かし、さまざまな地球環境問題について講義形式で授業を行い、かつグループ討議とその結果をプレゼンテーションする。いまクローズアップされている地球環境問題の根元には、さまざまな物質の織りなす化学の世界がある。それをきちんとつかむことが、地球環境を理解する第一歩となる。そこで授業では、まず高校レベルの化学の知識(化学I)を呼び起こすことから始める。次に地球環境を大気・陸地・陸水・海に分け、それぞれの環境問題を事例に取り上げながら科学と化学的特性を勉強していく。最後にはそれぞれの知識を統合し、地球全体における化学物質の循環及び管理方法について学んでいく。 (科目情報) 教育プログラム第4学年○科目 実践的教育科目/AE科目/RM科目				
授業の進め方・方法	本講義では、温室効果やオゾン層破壊、酸性雨等の大気問題をはじめ、干ばつや洪水等の異常気象、海洋汚染、等の現状と原因および解決策について最新事例を中心にパワーポイントによる説明をつうじて様々な地球環境問題を学ぶ。また、環境問題に対する関心と知識を深めるため、グループでの調査・討議、プレゼンテーションを実施する。なお、グループ単位のプレゼンテーション2回を試験とする。 (事前学習) 授業計画を確認し、教科書やインターネットを活用して予習をすること。				
注意点	(履修上の注意) 本教科の前提となる化学Iや化学IIを、平日頃から十分復習しておくこと。教科書を中心に授業は進めるが、インターネットや配付資料など様々なデータを示して説明を加えることもあるので、要点を必ずノートに取る習慣を付けておくこと。 (履修上の注意) 必要記入事項について理解すること。 (自学上の注意) 化学の復習を怠らないこと。				
評価					
(単位修得の条件について) 2回の課題によるプレゼンテーションを単位修得の条件とする。 (総合評価) 総合評価 = 2回の課題(プレゼンテーション)の平均点 (再試験について) 再試験は総合評価が60点に満たない者に対して実施するが、全課題の提出を受験資格の条件とする。					
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	環境化学についてのガイダンス、環境分野の知識の必要性	環境化学について、本校の教育目標の中での位置づけ、単位の取得法などについて、オリエンテーションを行う。また、なぜ環境化学を学ぶ必要があるのかについて解説する。	
		2週	地球温暖化その1	地球温暖化のメカニズムと原因について理解する	
		3週	地球温暖化その2	地球温暖化による影響について説明できるようになる	
		4週	地球温暖化その3	地球温暖化の対策について理解する	
		5週	オゾン層破壊	オゾン層破壊の化学的メカニズムと現状について説明できるようになる	
		6週	人口・食料問題	人口・食料問題の現状と課題について理解する	
		7週	グループ討議とPPT作成	異分野の学生間での討議スキルを学びプレゼンテーション用資料作成方法を習得する	

2ndQ	8週	(前期中間試験) グループ単位でのプレゼンテーション	PPTによるプレゼンテーションスキルを身につける
	9週	酸性雨と森林破壊, 砂漠化	酸性雨と森林破壊, 砂漠化のメカニズムと現状について理解する
	10週	海洋汚染問題	海洋汚染問題の化学的メカニズムと現状について説明できるようになる
	11週	水問題	水問題の化学的メカニズムと現状について説明できるようになる
	12週	ゴミ問題	ゴミ問題のメカニズムと現状について説明できるようになる
	13週	開発途上国の実態	開発途上国の実態に関する問題の現状について説明できるようになる
	14週	グループ討議とPPT作成	異分野の学生間での討議スキルを学びプレゼンテーション用資料作成方法を習得する
	15週	(前期期末試験) グループ単位でのプレゼンテーション	PPTによるプレゼンテーションスキルを身につける
	16週	総合解説	課題に対してのプレゼンテーションの中でわからなかった箇所を理解する.

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		課題発表		合計	
総合評価割合		100	0	100	
基礎的能力		40	0	40	
専門的能力		40	0	40	
分野横断的能力		20	0	20	